

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

新年度に向けて

所長 **カサイ 汀**
笠井 史宏

4月1日付けで、森林技術・支援センター所長を拝命しました笠井史宏です。青森市の出身で、青森県内の官署は7年ぶりの勤務となります。よろしくお願いいたします。

さて、国有林野事業は平成25年度に特別会計から一般会計に移行し、「国有林野の管理経営に関する基本計画」も改訂されています。その中で基本方針として、①公益重視の管理経営の一層の推進 ②森林林業再生に向けた貢献 ③「国民の森」としての管理経営、地域振興への寄与等を国有林の使命として掲げています。

また農林水産業に関する施策として「日本再興戦略改訂2014」、「農林水産業・地域の活力創造プラン」で林業の成長産業化

が打ち出され、主伐期を迎えた人工林等の循環利用、新たな木材需要の創出、森林の多面的機能の維持・向上等が具体的施策として提示されています。

本センターはヒバ林地帯に位置し、ヒバやブナ林について、国有林ならではの長期に渡る試験研究を続けてきました。これらの研究も継続しつつ、林業の成長産業化に当たり、喫緊の課題である低コスト林業に関わる課題、地域に関わる課題等について技術開発し、民有林経営への普及を念頭に実用化した技術として提供したいと考えており、関係機関の皆様と更なる情報交換・情報共有を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



森林技術・支援センターの 安全への取組状況

平成28年度健康安全管理実施計画における重点目標は、

- 1 安全管理体制の充実強化と安全意識の高揚
- 2 交通事故の防止
- 3 周囲の状況確認危険予知能力の向上
- 4 職業性疾病の予防と健康管理の推進
- 5 蜂刺され災害の防止

となっております。

特に、技術開発課題における調査業務が多いことから、周囲の確認及び足場、足元の確認を行いながら「周囲よし」「足場、足元よし」の声かけ運動を実施し、今年度の無災害を目指すことにしております。（担当：副所長）

新任のご挨拶 企画係長 金澤 裕子

平成28年4月1日付け人事異動により、森林整備部 森林技術・支援センター企画係長を拝命しました金澤です。

当センターの主たる業務は技術開発・民有林支援であります。今まで、経理・会計業務に永く携わってきましたので、理解不足でご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、微力ながら一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

私の主な業務は総務全般となりますが「センターたより」の紙面作りにもはじめて関わりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

関係機関の皆様には何卒ご指導ご協力をお願いいたします。



技術開発課題の紹介について

当センターでは、現在8つの技術開発課題に取り組んでいますが、一部ご紹介します。

1. 列状間伐等林分の混交林化に関する検討（平成19年度～平成28年度）

「緑の回廊」等の目指すべき森林の考え方に基づき、平成15年度に設定した試験地について、スギ人工林を針広混交林への誘導する施業技術体系の確立を図るため、試験計画に基づき照度・植生等の諸調査を行うとともに、これらのデータを蓄積しながら、広葉樹の成長等の経過観察等を行っています。

今年度がこの技術開発課題の最終年になり、完了報告する予定です。

2. 多雪寒冷地における大苗植栽の特性について（平成28年度～平成32年度）

近年、戦後の拡大造林地が主伐期を迎えている。しかしながら、人工林の造成・保育に掛かる費用は木材販売収入を下回っており、中でも植栽後10年間に費やされる経費が全体の70%を占めており、コンテナ苗植栽、伐採造林一貫作業システム、低密度植栽、下刈りの省力化等の低コスト化の試験が行われています。

下刈りの省力については、従来裸苗を使った大苗の使用が試験されているが、耕耘面積が広い、苗木運搬等植栽経費が掛かり増しとなり、下刈りの省力化よりも高コストになるとされ進んでいない。しかし、コンテナ苗大苗を一貫作業システムで植栽すれば、これらの欠点が解消されると期待されています。

一方、これまでコンテナ苗大苗の東北地方における植栽実績は、徒長苗が使われており、積雪により倒伏し、融雪後も回復せず、下刈時に誤伐率が高くなる事例や植栽後の初期成長が十分ではない事例があり、多雪環境における大苗の使用が、植付及び下刈工期において、低コスト化となるか検証していきます。



今年の雪解けは例年に比べ早いようで、森林を歩くと、足下にはフキノトウ、コゴミ、ワラビ、ゼンマイなどの山菜やキクザキイチゲ、カタクリなどの植物が咲いています。このキクザキイチゲやカタクリはスプリング・エフェメラル（春の妖精）と呼ばれ、春に花が咲き夏には地上から姿を消してしまう植物なのです。今の時期に落葉広葉樹を歩くとあちこちでこの春の妖精に出会えます。

一方、青森県では落葉広葉樹林とは別にヒバ林が多くありますが、ヒバ林では春の妖精とは別の植物に出会うことができます。それが雪解け後のヒバ林の林床にひっそりと咲くヒメホテイランです。このヒメホテイラン昔はヒバ林に多く咲いていましたが、その可憐な姿から盗掘により個体数が激減して、環境省のレッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。出会えることができれば幸運かも！

仕事や学校など普段の生活で疲れたときに春の妖精たちに出会いに行ってみてはいかがでしょうか。



編集後記

今年は通勤途中、日本さくら名所百選の芦野公園の桜を見ることができました。4月から早いもので1ヶ月が過ぎましたが、職員は技術開発課題に向けての打合せなど下北署をはじめ局管内を走り回っています。これから、本格的に現地での調査が始まります。この紙面を通じて皆さんに紹介していきますので今年度もどうぞよろしくお願いいたします。